



お変わりありませんか？急に春らしくなりましたね。ポカポカの陽気で梅も満開。草花も愛犬ミミも私たちが手足をうーんと伸ばしたくなるような、そんな気分です。



いよいよ田んぼの準備が始まりました！今年もおいしいお米を作るための農作業開始です。まずは堆肥を田んぼに施します。牛舎から出た自家製の堆肥。籾殻やワラにたっぷりくっついたあか牛たちの糞が、冬の間に発酵して最高の堆肥になっています。もちろんその籾殻やワラも我が家から出たもの。無駄にする所はありません。軽トラックに堆肥を積み、それぞれの田んぼに配ってから、できるだけムラがないように広げていきます。土作りは、おいしいお米をつくるための絶対条件。単純に見える作業ですが、けっこう神経を使います。

農作業が本格的に始まる前には、耕太一家は仕事で東京に行きました。今回もいろいろな出来事や出会いがありましたので、ご報告します。

私たちを東京に呼び寄せた“雇い主”は、NPO「田舎のヒロインわくわくネットワーク」という農家女性の団体。今回で6回目になるという全国集会が2日間に渡って早稲田大学の講堂で開催されたのですが、耕太は1日目のパネラー、私エリは2日目のコーディネーターを仰せつかりました。1日目のテーマは「食と農のグランドデザイン」、2日目のテーマは「グリーンツーリズム」ということで、全国から集まった農家女性が、学生や企業の方々と共に、これからの農業・農村はどうなっていくべきか、なんてことを喧々諤々とやるわけです。永六輔さんが駆けつけて壇上でスピーチしてくれたり、作家の斉藤栄さんが応援メッセージをくれたり、2日目には鉄腕DASH村を企画したテレビのプロデューサーが基調講演をされたり。そして会場には料理家や、大手企業の代表と言った結構な有名人もいたりして、熱気ムンムンでした。夜の交流会では、農家女性が持ち寄った農産物や加工品がビュッフェに並び、参加者は競うようにして舌鼓をうっていました。分科会も開かれ、食料自給率やグリーンツーリズムといったテーマで、夜10時過ぎまで語り合っていました。この集会で一番面白かったのは「夢語り&夢オークション」。参加者の中から、我こそはと希望する人が壇上で自分の夢を披露すると、それを受けて会場から「その夢、こんな形で応援します！」というふうに落札(?)するのです。新規就農します、都市と農村の架け橋になりたいです、夫の作る無農薬米と有機野菜でまかなう助産院を開きたいです、農村に文化センターをつくりたいです・・・さまざまな夢が発表されると、会場からは「研修に来ていいですよ」「仲間作りに協力しますよ」「ぜひそこで産みたいです」「私も同じ夢を持っているので一緒に考えましょう」などと、さまざまなエールが送られました。元気なおばち



ゃんばかりかと思いきや、けっこう若い農家女性たちもいて、心強くもあり、楽しくもあり。早稲田だけでなく、京都大学や青山学院大学、フェリス女学院といった優秀な学生もたくさん参加していました。女性たちの熱気におされたのか、かなりおとなしくしていた耕太ですが、たくさんのエールを受けて、今後の活力になったのではないのでしょうか。



それから、今回の滞在中に、農林漁業金融公庫の高木総裁とお会いしてきました。今年の1月から3回に渡って、「AFCフォーラム」という機関誌の中で総裁との「往復書簡」のコーナーを担当した耕太。紙面上では、ちょっとした議論になったので、このまま終わるのではどうも後味が悪いし、直接会ってみたらきっとお互いの印象も変わるだろう、と言うことで、編集部に頼んで実現した表敬訪問でした。お忙しい方だから30分くらいだろうと思っていたら、なんとなんと。4時間近くにわたる長丁場の対談となりました。耕作放棄地をどうにかしなければ、というご自身の強い思いを語られ、それぞれの立場で一緒にがんばりましょうと硬い握手でお別れしてきました。なんだか首脳会談みたい！？こんな機会でもないと、総裁とお会いすることなんてまずないでしょうから、社会科見学のつもりで行ってきました。ところで、訪問の間は近くの博物館でおばあちゃんと一緒に待っていた子供たち。とうとう待ちくたびれて「おかあさん」と言い出したと連絡が入ったので、それを総裁に伝えると、どうぞいらしてください、ということで総裁室に来ることに！公庫の職員の方々も、「こんなかわいいお客様ははじめてです」とニコニコ。「おおつきっぺい、2歳です」「おおつれんぞう、2歳です」とそれぞれちゃんと自己紹介もでき、大いにかわいがっていただきました。

さて、阿蘇に帰ってきてからは、やることがいっぱい。冬の間に取り出しておいたクヌギの木にドリルで穴を開け、シイタケの菌を打ち付けます。子供たちがやってみたくらいなので、手伝わせてみたところ、これが立派にできるのでびっくり！コルクの栓みたいな形をした駒を渡すと、きちんと細かい方を下にして穴に埋め込み、とんかちでそれを叩くのです。2歳っていろんなことができるんですねえ。感心、感心。菜園も夏野菜を植えるための準備をしなければ。阿蘇名物のタカナだっけとらなきゃ。牧野では春を告げる恒例の「野焼き」を行い、ぼちぼち忙しくなってきたね、と言いつつ、庭で昼食を食べた後にコーヒーでも飲みながら春の日差しを楽しむ毎日。これだから農家はやめられません！？

暖かくなってきましたので、機会がありましたら阿蘇にいらしてくださいね。それでは皆さま、お元気で。

